

セラム、トリゴニアなどが見つかり、昭和43年には6.5 mほどの大きな、くびなが竜の化石が、いわき市大久町入間沢で発見されています。

また、日本列島では、白亜紀の終りから第三紀にかけて、大規模な花こう岩の貫入や、大量の火山岩の噴出が occurred。この一環として福島県内でも阿武隈山地に2回にわたって花こう岩が貫入しました。現在、阿武隈山地で見られる花こう岩はこの貫入でできたものです。

#### 4、常磐炭田の形成時代（古第三紀：6400万年～2600万年前）

中生代末の大規模な花こう岩の貫入をとともなう造山運動で、海底にたい積した中生層も陸化しました。古第三紀始新世の終わりから漸新世にかけて、北茨城市からいわき市にいたる南北85 Kmにおよぶ地域で沈降が始まり、大きな湾形の入江ができました。当時の気候は高温多湿で、入江の周辺の山地には、メタセコイヤをはじめとしてポプラ、プラタナスなどの温帯性樹木やシュロ、パショウなどの亜熱帯性樹木が繁茂しており、これらの樹木が入江に流れこみ、それを砂や泥が埋めて石炭層ができました。



古第三紀末の日本列島

漸新世のはじめ頃は、水深も浅く、レキ岩-砂岩-頁岩-石炭-頁岩の順に、小さなたい積輪回をくり返していることから、水深も一進一退を続けたことがわかります。

石炭層のたい積後、この付近はさらに沈降がすすみ、海が陸地に入りこみ、海もいっそう深くなり、砂質や泥質の厚い地層をつくりました。この砂質の地層にはたくさんの動物化石が含まれております。

一方、阿武隈山地以西の地域は、中生代はじめから続く日本の大陸時代であったために、古第三紀の地層はありません。

#### 5、阿武隈山地が島となる（新第三紀：2600万年～200万年前）

新第三紀の中新世の始めに、福島県だけでなく、東北地方全域に、さらに広く日